

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 緩和的人工肛門造設術患者における術後合併症発生および予後に関する検討』

研究機関名 東邦大学医療センター大森病院

研究責任者 消化器センター外科 職位・氏名 助教 後藤 麻佑

【試料・情報の利用目的】

がんの腹腔内への進展や転移によっておこる消化管閉塞では、嘔気・嘔吐、腹痛などの苦痛な症状が出現し、食事摂取も困難になります。その症状を緩和する方法の一つとして緩和的人工肛門造設術が選択されることがあります。人工肛門造設手術により消化管閉塞による症状が改善し食事ができるようになる一方で、時に術後重篤な合併症が発生したり、術前にはみられなかった別の苦痛な症状が出現したり、食事ができないまま亡くなる患者さんもいらっしゃいます。

東邦大学医療センター大森病院消化器センター外科では、緩和的人工肛門造設術時の合併症および死亡発生率減少を目指すために本研究を計画しました。この研究の目的は、症状緩和を目的にストーマ造設が必要となった患者さんに対して、術前および術中の患者さんの状態から術後の重篤な合併症や死亡の発生を予見でききないかを検討するものです。

この研究で得られる成果は、切除不能な原発のがんや再発がんの患者さんに対しての症状緩和を目的とした人工肛門造設術の術後の重篤な合併症の発生と死亡の回避につながると考えています。

【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

【研究に用いられる試料・情報】

試料: 該当せず。

情報: 患者基本情報(年齢、性別、身長、体重、日常生活の制限の程度、入院期間、術後入院期間など)、既往歴、服薬内容、血液検査結果、手術関連情報(術式、手術時間、術中出血量、術後経口摂取開始日、術後合併症など)、症状の改善の有無、転帰など。

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2023年10月より利用を開始します。

【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

東邦大学医療センター大森病院 病院長 酒井 謙

【試料・情報の取得方法】

対象者: 2005年1月～2022年12月までに東邦大学医療センター大森病院 消化器センター

外科において、切除不能な原発のがんおよび再発がんの理由から緩和的人工肛門造設術を受けた方。

方 法: 診療録(カルテ)から抽出したデータを解析します。

【研究組織】

代表施設名: 東邦大学医療センター大森病院 研究代表者: 後藤 麻佑 役職: 助教

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

東邦大学医療センター大森病院 消化器センター外科 後藤麻佑

データを利用する者: 東邦大学医療センター大森病院消化器センター外科

長嶋康雄、三浦康之、鈴木孝之、鏡哲、金子奉暁、牛込充則、船橋公彦

本研究に関してご質問のある方、情報を研究に利用することを承諾されない方は、2025 年 8 月 31 日までに下記へご連絡下さい。申し出のあった方の試料・情報は、利用や他の研究機関への提供を行いません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター 大森 病院 消化器センター外科

職位・氏名 助教 後藤 麻佑

電話 03-3762-4151 内線 6530